

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	龍ヶ崎市こども発達センターつぼみ園		
○保護者評価実施期間	令和6年9月30日		～ 令和6年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	令和6年9月30日		～ 令和6年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○訪問先施設評価実施期間	令和6年9月30日		～ 令和6年11月30日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	＜適切な支援の提供＞ 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析し、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、保育所等訪問支援計画を作成している。	保護者の不安を取り除き、児童が安心して集団生活を過ごすことができるよう丁寧な対応を心がけている。	子どもが安心して集団生活を送れるよう、専門職スタッフの確保及び担当する職員のスキル向上を目指す。
2	＜適切な支援の提供＞ 保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んで作成している。	訪問先施設担当者との信頼関係を築けるよう心がけている。	保育所等訪問支援の理解及び協力が得られるよう、保育園や認定こども園、小学校等との連携をきめ細やかに行う。
3	＜訪問先、保護者への説明＞ 保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っている。また、保護者へ適切な支援内容等について共有を図っている。	保護者、訪問先の担当者ときめ細やかに対応し、支援の目的にズレが生じないように心がけている。	訪問先、保護者との信頼関係を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業の利用希望者がいるが、対応できる訪問支援員が不足している。	訪問支援員が他事業と兼務になっている。	専従できる職員の確保が必要である。
2	第三者による外部評価を行っておらず、評価結果からの業務改善ができていない。	市の障がい福祉課や自立支援協議会での運営状況等は報告しているが、第三者による外部評価は行っていない。	市の障がい福祉課や自立支援協議会において相談し検討していく。
3			